

パートナーシップで進めるまちづくり

京まち工房⁶⁵

(公財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター



京町家まちづくりファンド8年間の記録

特集

未来へつなごう京町家



京町家再生事例

西陣の路地奥で町家暮らし



景観・まちづくり大学

京のまちづくり史セミナー
京都の北と南、東と西 ほか



景観法10年を検証する



「修徳まちなみ文化財」の取組



三都連携セミナー

すまい・まちづくり学習フェスタ

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

京まち工房

65号

平成25年12月20日

編集・発行 (公財)京都市景観・まちづくりセンター

デザイン・印刷 (株)リーフ・パブリケーションズ

景観・まちづくりシンポジウム 「これからの地域まちづくりの担い手」

私たちのまちがいつまでも安心して快適に暮らすことのできるまちであるためには、地域まちづくり活動の輪を広げ、活動を引き継いでいくことが重要です。そこで、これまでの地域まちづくり活動や地域で芽生えつつある新しい活動から、これからの地域まちづくりの担い手について考えます。

【日時】 平成26年2月23日(日) 13:30～16:30
【場所】 ひと・まち交流館 京都 2階大会議室
(京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1)
【プログラム】
全体会
分科会①「コミュニティ形成に貢献する
景観まちづくりの可能性」
分科会②「創造的な活動空間によるにぎわい創造」

「京あるきin東京2014」 京都創生連続講座in東京 シンポジウム 「智恵の継承 ー京町家の再生を通してー」

都市の歴史を今も感じさせる京都。そこに暮らす人々が生活の中で作り上げてきた住まいである京町家の未来を考えます。

【日時】 平成26年2月7日(金) 18:30～20:30
【場所】 野村コンファレンスプラザ日本橋
(東京都中央区日本橋室町2-4-3日本橋室町野村ビル6F)
【主催】 京都創生推進フォーラム、京都市、
特定非営利活動法人京町家再生研究会、
(公財)京都市景観・まちづくりセンター
【後援】 ワールド・モニュメント財団
【協力】 野村コンファレンスプラザ日本橋
【出演者】 パネリスト:西村 吉右衛門氏(ちおん舎 会主)
アラード・チャールズ・ジュニア
(ウィントン・キャピタル・アジア 代表取締役社長)
コーディネーター:
小島 富佐江氏(京町家再生研究会 理事長)

コミュニティFM 番組のお知らせ

まちづくり活動や景観保全の活動について、ゲストをお招きし、京都三条ラジオカフェ(FM79.7MHz <http://live.ptw.cc/>)より「まちづくりチョビット推進室」と共同で企画・放送しています。ぜひ一度聞いてみてください!!
・放送日時/毎月第3・4土曜日 15:30～16:00、第3・4日曜日 10:30～11:00
・番組ホームページ <http://www.kohsei-const.co.jp/chobitto/chobitto.html>

賛助会員 募集中

センターの活動の趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集し、会費はニュースレターの発行やまちづくり活動の支援、京町家の保全・再生に向けた取組などの事業に活用させていただきます。

年会費
個人1口/5,000円 団体1口/50,000円

- 特典1 ニュースレター「京まち工房」送付(季刊・年4回)
- 特典2 冊子等の進呈
- 特典3 当センターホームページへのバナー掲載(団体会員)

入会をご希望の方は、当センターにお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

会費 振込方法

- 銀行振込 当センターより専用振込用紙をお送りします。
三菱東京UFJ銀行 京都支店 普通 1166668
京都中央信用金庫 本店 普通 1177867
- クレジットカード決済 当センターホームページからお振込みいただけます。
(VISA、MasterCard、JCB)
- 当センター窓口 現金のみ受付いたします。

(公財)京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL:075-354-8701 FAX:075-354-8704
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

開館時間

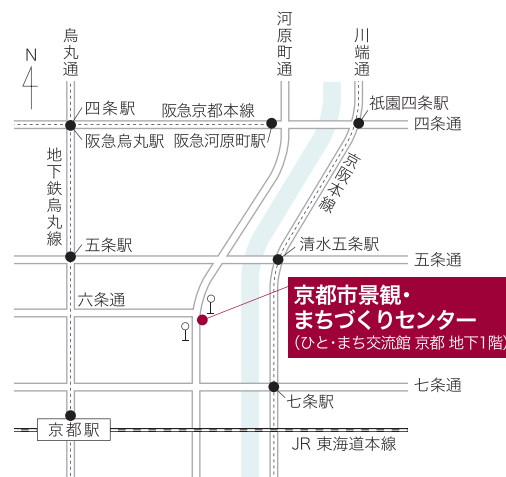
平日・土 9:00～21:30
日・祝 9:00～17:00

休館日

毎月第3火曜日(国民の祝日にあたる時は翌日)
年末年始(12月29日～1月4日)

交通系統

バス 市バス4・17・205号系統「河原町正面」下車
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩 8分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩10分



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



(公財)京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

未来へつなごう京町家 ー京町家まちづくりファンド8年間の記録ー

日時：平成25年9月19日（木）

場所：「ひと・まち交流館 京都」2階大会議室

京町家まちづくりファンドは、京都を、そして京町家を思う皆さまの参加によって、京町家の保全・再生・活用を推進するために設立した基金です。平成17年の設立以来、68件、総額1.1億円の改修助成を行って参りました。この度、京町家の再生の先駆者である、京都生活工芸館・無名舎主の吉田孝次郎氏に特別講演をいただくとともに、ご寄附やご協力をいただいた皆さまへの感謝状贈呈、事業の実績を報告しました。



会場の様子

特別講演

「京町家の今日とこれから」

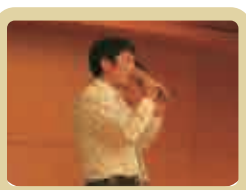
明治から昭和、激動の時代を経て看板建築となった生家を、ご自身の手で復元改修された経緯、美意識に根ざした四季折々の暮らしをご紹介いただきました。京の商人たちが住み続けた千年来の生活の蓄積、体験を基にして到達したのが表屋造という建築様式であり、京町家の先には千年間培われた京都の生活文化があることを受けとめ、伝えていくことが大切であるとお話されました。



京都生活工芸館・無名舎（吉田家住宅）
吉田 孝次郎氏

報告会

当センターからの概要説明の後、助成を受けて改修された丸山邸の所有者である丸山悠介氏に京町家暮らしを始めたきっかけや設計士と議論を重ねて改修した自邸への思いを語っていただきました。



丸山 悠介氏

感謝状贈呈

格別にご寄附いただいた皆さまへの感謝を込めて、感謝状を贈呈しました。



法人代表の皆さま



個人の皆さま

文＝西井 明里

ご寄附をいただいた皆さまへのメッセージ

京町家まちづくりファンド委員会
委員長 大場 修
（京都府立大学大学院教授）



私のライフワークは町家研究です。各地の町家を調べる中で、「京町家」は日本の主要都市における町家の原形だとわかりました。京町家は日本の都市住居の源流なのです。京都には4万8千軒の町家が残ります。今なお市民の暮らしの基盤となっている町家のいずれにも、京町家の千年に及ぶ歴史性と、全国の都市に残る町家の原型であるという文化的価値が通底しています。観光名所である神社仏閣とともに、京町家は一つ一つが歴史都市京都を体現し、その価値を担保する歴史資産そのものです。京町家まちづくりファンドは、町家を舞台とした生活文化の保全と、町家の再生と活用の促進に着実な成果をあげています。全国的にも類のないこのファンド事業は、日本の都市居住の原点であり、都市文化の発信源であり続けた京町家を21世紀に継承する取組として重要なのです。これまで京町家まちづくりファンドの趣旨にご賛同頂き、寄附をお寄せ頂いた方々には心より御礼申し上げます。当委員会としましても、今回の報告会を節目としつつ、助成事業に今以上に取り組んでまいる所存です。皆様の一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

京都市景観・まちづくりセンター
理事長 三村 浩史
（京都大学名誉教授）



“まちセン”（当センターの愛称）は、京都の景観を社会資産として保全し、より良い姿で未来につなぐため、市民、事業者、行政の協働を進める場として1997年に設立されました。京町家についても当初から保全活動の支援テーマとして、実地調査、相談、セミナーなどに取り組んできました。そこで、民有資産である町家を修復する事業をどう公的に助成できるか躊躇していた2005年、東京在住の篤志家から多額のご寄附をいただき、これを契機として、市や国の機関および市民の皆様のご協力により「京町家まちづくりファンド」を設立いたしました。この8年間で改修助成事業は68件に達しています。専門家によるファンド委員会は外観修復のデザイン、暮らしの文化の継続性、町並み景観への影響などを審査し対象を選定しています。修復された内の4件は景観重要建造物に指定されました。これを機に、若い世代に住み継がれ、福祉・文化活動の集まりの場ができるなど、まちづくりにも活気を与えています。一方、相続問題や空き家流通など難題も伴いがちですが、多くの専門家やNPOと連携して解決に取り組んでいます。今後は、本活動を市民の皆様はじめ、全国・世界の支援者の方々との意見交換・交流の場としてよりオープンに運用して参ります。改めまして、この8年間の本活動における皆様方のご支援・ご尽力に深く感謝を申し上げるとともに、引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

ご寄附いただいた皆さま

個人（五十音順 敬称略） 青木伊知郎 明石隆夫 秋山正俊 浅野明美 足立裕一 荒木陽子 有吉雅子 李明善 飯田武爾 池田敏彦 池本博信 石崎了 石原一彦 石村陸貴 市川英一 市田ひろみ 伊藤昭 伊藤滋 伊藤忠夫 稲石勝之 井上克之 岩田幸三 上飯屋尚 上田萌子 上原任 上村多恵子 江田頼宣 衛藤照夫 大島英司 大島仁 大谷孝彦 大津弘子 大槻泰 大西國太郎 大邊徹 岡崎篤行 岡崎基幸 岡田圭司 岡本晋 岡本秀巳 小川猛 小川直樹 奥哲治 奥園俊夫 奥山脩二 小澤敬子 小野晴久 小山選一 海堀安喜 笠岡英次 門川大作 門川博子 神谷俊昭 刈谷勇雅 川崎清 河内隆 川端良穂 河東義之 河邊聰 川村善之 木崎勝夫 岸田里佳子 北川秀樹 北川洋一 北村信幸 木村茂和 木村忠紀 桐澤孝男 桐敷真次郎 熊倉淳 熊倉亨 栗本洋治 栗山裕子 桑田泰弘 小池裕昭 小池泰夫 小泉光太郎 小嶋寛信 児玉幸子 後藤新 小林都雄 小林秀樹 小林史彦 小林正孝 小山孝雄 坂本正寿 相良昌世 桜井友三 桜井マツエ 左近照麗 佐々木淳 佐々木政孝 J.F.モリス 鹿田五十鈴 清水宏一 清水博之 志村公夫 白須正 新喜富雄 末川協 菅井聡子 鈴木知史 鈴木照子 諏訪幸子 惣津紀久子 醍醐孝典 高川祐子 高木勝英 高木進 高木貴子 高木伸人 高木壽一 高田光雄 高橋康夫 高谷基彦 武居桂 田島恭子 田房千恵子 巽和夫 田中田鶴子 田中照人 田中昇 田中光男 田中行夫 田辺真人 多児貞子 谷口一朗 谷口親平 玉井泰子 田宮恵美子 チョウヨシギ 辻本尚子 津田洋子 鶴谷初廣 勅使河原拓 寺本健三 東樋口護 土江田曜子 富江保 豊田理子 内藤郁子 仲隆裕 長井攝 中井邦子 長井典子 長井洋子 長坂寿俊 中島晃 中島吾郎 中村忠夫 中村浩 行木秀雄 奈良真一 西居智司 西城嘉子 西澤孝子 西島安則 西村孝平 西村隆 野口美子 朴勝俊 橋本憲一郎 橋本清勇 長谷川和子 秦まゆな 畑中政治 花原秀樹 早崎真魚 林建志 林幹夫 林道弘 樋口忠彦 人見米一 平岡輝 平岡邦彦 平林昭代 深井敦夫 深井希代 深井一郎 深井美沙希 福島貞道 藤島幸彦 藤本勲 藤本春治 古川幸隆 平家直美 星川茂一 細川義明 堀井久司 前田裕資 横村久子 益田兼房 松井珍男子 松田彰 松村篤之介 松村光洋 丸山修一 満田照世 三原克敏 三村晴子 三村浩史 宮脇基良 村田清 村田英樹 望月哲男 望月幸夫 森本藍 矢部広就 山岡篤史 山岡良子 山口薫 山崎和子 山田敬子 山中恵美子 山本亘 山本英雄 山領まり 横道洋子 横山経治 善積秀次 吉田香 吉田孝次郎 淀野実 リムボン LEON・MASAKO 脳山芳和 渡部隆夫 以上227名様 ご芳名の非公開希望54名を合わせて281名の皆さま（平成17年から平成25年3月時点）

皆さまのご支援に深く感謝申し上げます。

※ご寄附いただいた当時のご芳名、法人・団体名を記載しております。

法人・団体（五十音順 敬称略） 姉小路界限を考える会 有明をよくする会 伊賀上野町家みらいセンター 横井筒ハツ橋本舗 伊藤園 大阪ガス㈱ ガーデンパーティ実行委員会 北尾商事㈱ 京セラ㈱ 京都クレジットサービス㈱ 京都工大朝の会（財）京都市駐車場公社 NPO法人京都自由大学 京都青果合同㈱（有）京都旅企画 京都土木協会（社）京都府建設協会京都支部青年部会 京都府考古美術協同組合（社）京都府宅地建物取引業協会山科支部 京都むらさきライオンズクラブ 京都洛南ロータリークラブ キリンビバレッジ㈱ 近畿コカ・コーラボトリング㈱ 近畿日本ツーリスト㈱ キンシ正京㈱（有）久保田設計室 くらっそ京都まちなか 京滋建設㈱ 建都住宅販売㈱ ㈱公益社 コカ・コーラウエスト㈱ NPO法人古文化の会 ㈱さんはい ㈱JTB企画中国四国 NPO法人四条京町家 清水建設㈱京都営業所 ジャパンリスクマネジメント㈱ 白壁アカデミア 末川協建築設計事務所 ㈱ゼロ・コーポレーション 全国女性造園技術者の会 大韓民国外資特別市江北区議会 中部興産㈱沖縄市本店 ㈱ディー・エー・シー 帝産京都自動車㈱ 東洋ゴム工業㈱ 西日本ビバレッジ㈱ ㈱西利 日本公認会計士協会京滋会 NPO法人日本再生プログラム推進フォーラム（財）日本地域開発センター（財）日本賃貸住宅管理協会沖縄支部 ㈱日本統計事務センター ㈱八清 花豊造園㈱（有）林孝太郎造酢 ㈱フクナガ・ティアンドフーズ ㈱フラットエージェンシー 本町大通り商店街振興組合 三木城下町まちづくり協議会 光村推古書院㈱ 光本瓦店（有）（有）みのり住建 ㈱都ハウジング ㈱村井建設 村田機械㈱ ㈱山中新太郎建築設計事務所（有）一笑 有限責任中間法人京都不動産投資顧問協会 四日市文化会（有）ローバー都市建築事務所 渡文㈱ Faculty of Architecture Naresuan University Stone Bridge Press, Inc. The Deepest Kyoto実行委員会 以上75団体 法人・団体名の非公開希望7団体を合わせて計82団体（平成17年から平成25年3月時点）

ご寄附の方法

金融機関へのお振込

三菱東京UFJ銀行	京都支店	普通	1234110
京都中央信用金庫	本店	普通	1606485
京都銀行	本店	普通	4114655

クレジットカード決済

京町家まちづくりファンド

検索

からご寄附いただけます。（VISA, MasterCard, JCB）

当センター窓口 現金のみ受付いたします。

一口
1,000円から
受付けて
おります

京町家再生事例

藤原邸「西陣の路地奥で町家暮らし」

*京町家カルテ

京町家を次世代に適切に継承していく手かかりとするために、京町家の価値を「基礎情報」、「文化情報」、「建物情報」、「間取図」の構成でまとめた資料です。
京町家の所有者・居住者の方に、自らの京町家の価値を理解していただき、今後の維持、管理、継承に役立てられることを期待しています
※詳細は当センターまで



今回は、京町家カルテを作成して西陣にある路地奥の町家を再生するとともに、新しく町家暮らしを始められた藤原邸のご紹介です。
秋田県出身のご主人に兵庫県出身の奥様との町家暮らしの楽しさと苦労をお聞きました。

文=高橋 彰

町家購入のきっかけ

7年ほど前に4ヶ月間、世界各国を旅しました。様々な文化や暮らし、町並みに触れることで、逆に日本について考えるきっかけとなりました。



冬は友人と囲炉裏を囲む

今は生まれ育った秋田を離れて京都で暮らしているわけですが、同じ日本でも地域によって違いがあり、京都に住むなら京町家が欲しいという気持ちになりました。それにはやはり、旅先の外国で感じた日本の文化と、異国の文化への憧れが少なからず影響していると思います。

世界でも都会に行くほど、古い文化は薄れていくように思います。京町家も探せばまだありますが確実に数が減っていて、この家に出会うまでにたくさん物件を見ましたが、本来の町家の姿が残っている家は少なかったです。また、貴重な文化を自分たちで残せるという事も購入の決め手となりました。もともと妻は建築デザインを専攻していて町家に興味があり、この家を見つけてからはスムーズに話が進みました。

改修のこだわり

改修をお願いした工務店には、事前に工事現場や実際に手がけた家を見せて頂き、とても参考になりました。この家も最初に見て頂いて、出来るだけ元の形に戻すことに決めました。

トオリニワの部分に床が張られていたり、所々アルミサッシになっていたり、現代の生活に合わせて改修されていたのですが、それらも土間や木枠窓、虫籠窓にし、町家らしい姿に修復しました。西陣の織屋建てで二階が低く狭い印象でしたが、作業場部分の二階の床を外し、吹き抜けにする事でとても開放的な空間になったと思います。



土壁を塗る奥様

改修の際には友人達にも手伝ってもらいながら、作業場のコンクリートを割ったり、土壁や弁柄塗りもしました。最初は下手でしたが段々上手くなり、何より出来た時の達成感と自分の家がどのように出来ていくのか実感出来て、とても良かったと思います。大工さんには、土壁や弁柄塗りを途中で諦めると思っていたと言われて

いましたが、最終的には住みながら完成させました。いい経験になり、また、友人達には感謝できません。

「古いものと新しいものが共存しているのが解るからそのままがいい」と言う妻のこだわりで、改修した部分はほぼ白木のままで塗装をしていません。

町家で一年過ごして



夏はハンモックに揺られ

夏はハンモックが思いのほか気に入りました。建具を開けると庭から風が通り、快適です。冬は土間からの風がとても寒いですが、以前にも増して四季を感じられるようになったと思います。

また、暮らし始める前は車をどうするか悩みましたが、今はカーシェアリングを利用してとても便利です。京都の路地は狭いですし、駐車スペースも取りまから、町家暮らしにはとても良いシステムだと思います。

改修後の写真:藤原氏



「修徳まちなみ文化財」の取組



「修徳まちなみ文化財」選定までの経緯

修徳学区は、平成24年6月1日に京都市から地域景観づくり協議会の第1号認定を受けました。(京まち工房60号参照)修徳学区内で建物を建てたり、外観を変更したりする場合には、建物の所有者はあらかじめ地域と協議することになります。

町並みをより良くしていくためには、まず、地域の人たちが地域の良さを理解した上で、それを協議の場である景観づくり相談会で建築主等に伝える必要があります。そこで、みんなで修徳学区の「まちなみ文化財」を選定することにし、その取組を通じて地域の良さを再発見し、それを共有することになりました。



選定会議のようす

「修徳まちなみ文化財」とは？

通りを歩きながらよく見てみると、修徳学区には修徳らしい町並みを形作ってきた建物が点在しています。「修徳まちなみ文化財」は、地域の人たちが選ぶ、「地域の宝物」や「地域の町並みのシンボル」として後世に残していきたい建物です。選定の際には、個々の建物の良さだけでなく町並みとしての良さがポイントになります。例えば、何軒か連なって魅力的な町並みを形成していることや、町並みへの配慮が感じられることが、評価の対象となります。

昨年度から今年度にかけて学区を4ブロックに分けてワークショップを行い計44軒の「修徳まちなみ文化財」を選定し、今年9月4日には表彰式を行いました。



取組を通じて

まちなみ文化財の選定を通じて、「今まで車やバイクで走り抜けていた通りを歩いて、一軒一軒の建物を目の高さで見てみることで初めて気付くことがあった」「生活しながら維持されている町家がまだまだたくさんある」「室外機に目隠しを設置して町並みに気遣っている家がある」などの意見が地域の人たちから出ました。

まちなみ文化財は、地域の人たち自身が地域の町並みを見直して、外から来る人たちにその良さを伝えるためのツールとなります。また、町並みをより良くしていくための励みにもなるように新しく建つ建物も選定するなど、取組はこれからも継続される予定です。

*修徳まちなみ文化財の取組は、京都府建築士会の地域貢献活動基金の助成を受けて行われています。

文=阿部 麻衣子、森川 宏剛

取組の手順



まちあるきをして候補となる建物をピックアップ



選定ワークショップで意見交換と投票



修徳まちなみ文化財のプレートに焼印



サマーナイト in修徳で選定建物の写真を展示



選定建物所有者に選定証と修徳まちなみ文化財のプレートを授与



京のまちづくり史セミナー

都市史の中でも、特に住民の自立した活動としてのまちづくりの変遷を学ぶ講座です。

2013

8/7
wed

京都の北と南、東と西 地図に潜む二つの関係

講師：高橋 康夫氏（花園大学教授、京都大学名誉教授）

方位や街路から垣間見える、京都の前近代期の人々の生活やまちの捉え方についてお話しいただきました。

もともと平安京は方位に大きく規制された都市で、地名にもよく使われています。しかしその基準は必ずしも絶対的なものではなく、例えば平安時代には、左京の中でさらに東西に分けるような地名（東三条、西三条）ができたそうです。また、戦国期には、堀川を基準にした「川ヨリ西組」と西洞院川を基準とした「川ヨリ西組」など、同様の地名が複数表われ、このことから、人々は独自に生活圏内で拠り所とする川等を基準に据えて生活していたのではないかと感じました。

また京都では、道は街区を秩序立てて“分ける”役割を果たす一方、巷所化、辻子の開発、東西にも家並みをもつ四面町の形成等により階層的な秩序を失ったこと、「公平性・公明性を持つ世界＝公界」として人々を“つなぐ”存在にもなり、中世から受け継がれた京都の都市の特徴であるとのことでした。また京都の道の存在はヨーロッパの川や海が存在にも近いという話もあり、川や海、道によって街が分断されながらも、人々が等しくその周辺に集う様子は中立的で、自由、平和、開放、共有といった無縁性をもつ場は、万国共通に人々が必要としたものだと感じました。



こうしょ
*1 巷所：宅地化・耕地化した道
*2 辻子：条坊制に規定されていない道

2013

10/9
wed

調停する都市

講師：中川 理氏（京都工芸繊維大学大学院教授）

岡崎の内国博覧会を契機に、京都は日本の「歴史性」を体現する近代化に舵を切り、観光都市としての発展もスタートします。一方、戦国期以来育まれた伝統的な地域支配構造が近代に至っても保守的な政治勢力として力を持ち、都市計画事業等に遅れが生じます。しかし、地元に基盤のない新しい市長が登場すると、わずか4年で三大事業と呼ばれた都市改造を成功させます。中でも道路拡築の事業では、用地買収などに公同組合という、京都市が町ごとに新しく設置させた地域組織が活躍しました。近代化の障害となった古くからの地縁を市の発展に活用したのです。こうした調整の巧みさ、しなやかさが現在の京都をつくったのかもしれない。



文＝牧野 杏里



まちづくり実践塾

今年度は「景観」をテーマとして、京都の景観を形づくってきた自然や営みや制度、また海外や他都市の事例を学び、京都の景観まちづくりの可能性を広げます。

2013

7/26
fri

移り変わる町の景観制度

講師：小浦 久子氏（大阪大学大学院准教授）

景観講座の第1回目では、景観まちづくりの考え方についてお話しいただきました。景観まちづくりは地域の見慣れた風景を言葉や写真を使って表現してみるところから始まります。歴史的な町並みだけでなく身近な生活の場、住まいのつくり方にも手がかりがあります。京都市の新景観政策施行後に西陣や御所西等の旧市街地型美観地区で建てられた戸建住宅の調査結果について解説いただき、歴史的な建物にはなかったベランダや駐車スペース等が、現在の町並みに影響を与えていることが分かりました。



2013

9/20
fri

海外の街の再生から京都をみる

講師：阿部 大輔氏（龍谷大学准教授）

第2回目は海外の事例、バルセロナの都市再生についてお話しいただきました。ヨーロッパに共通する都市再生の流れとして、自動車優先になっていた道路空間の公共性を取り戻し、道を歩行者空間としていく、ということが挙げられます。バルセロナでも、旧市街の暗く環境の悪い街区の一部を取り壊して光の射し込む広場に、文化遺産をつなぐ歩道を整備することによって、人が近付きやすい公共空間を広げてきました。また、コミュニティサイクルを設置したりポスターやCMで住民向けにメッセージを伝えたり、観光客だけでなく住民を大切にする様々な手法は、京都のまちづくりを考えるヒントになりました。



*コミュニティサイクル：レンタサイクルの形態の一つで、一定範囲内で複数箇所に設置してある自転車を好きな場所で借りたり返却することができるシステム

2013

10/25
fri

海外の歴史的環境保全から京都をみる

講師：江口 久美氏（京都大学大学院人間・環境学研究所 日本学術振興会特別研究員）

第3回目は、パリの歴史的環境保全についてお話しいただきました。19世紀のパリではオスマンによる都市改造が行われ、古い街区を取り壊し広幅員の道路が建設されました。それに対し、歴史的建造物等の遺産を保全するために設立されたパリ記念物愛好会という民間団体をもとにした「古きパリ委員会」が設立され、生活者が体感する生き生きとしたパリの界隈を守りたいという理念の下、遺産リストの作成が進められました。

京都の主な都市保全制度についても解説いただき、都市の捉え方や町並み保全の方法について、パリと京都を比較しながら意見交換を行いました。



文＝阿部 麻衣子

京町家再生セミナー

京町家に関する基本を
さまざまな視点から学びます。

「京町家とは何か？～町家の再生事例に触れて！」

町家キャンパスとして再生された築約150年の町家を会場に、龍谷大学の学生さんと共同で開催しました。講演では、京町家の成り立ち、空間構成、外観意匠、構造特性、防災への備え、持続可能な木造文化など、京町家の魅力について幅広くお話しいただきました。意見交換では、「町家保全には外観とともに町家内部の様式や暮らし方の継承も大切」「町家が住まいとして継承されることがまちの形成につながる」といった発言が出ました。「講演や意見交換を通じて僕自身も町家について学び、京都の街がもっと好きになりました。」（運営担当：龍谷大学 古川 裕之さん）



講師：松井 薫氏（京町家情報センター代表）
会場：龍谷大学深草町家キャンパス

文＝辻 真紀子

2013

10/26
sat

今後の開催予定

京のまちづくり史セミナー	1/22(水)	19:00～21:00	「街並みの和と洋：現代京都の二度の転機」
	2/26(水)	19:00～21:00	「京都にみる近代建築の保存と活用」
	3/23(日)	14:00～16:00	「京都小学校校舎の発展過程と学区」
まちづくり実践塾	1/17(金)	19:00～21:00	「小さな広場から始まるまちづくり」
	2/19(水)	19:00～21:00	「都市インフラ企業とまちづくり」
京町家再生セミナー	1/11(土)	14:00～16:00	「冬の寒さを楽しむ一火鉢編①」
	1/23(木)	19:00～21:00	「京町家を、京都の景観を、次の世代に引き継ぐための基礎知識②」
	2/22(土)	19:00～21:00	「京町家の賃借・売買の質問にお答えします。活用事例もご紹介します。」
	3/7(金)	19:00～21:00	「町家の改修計画から工事までの手順」
	3/15(土)	10:00～12:00	「あなたの町家の活かし方」

〈申し込み方法〉

①セミナー名 ②開催日 ③氏名(ふりがな) ④電話番号 以上を明記の上、電話・FAX・E-mailにて京都市景観・まちづくりセンターまでお申し込みください。

「まちづくり専門家セミナー」



開講中！



まちづくりを実践する市民や専門家、これからのまちづくりを担う学生が集まり、まちづくりの実践に必要な情報の共有や課題解決方法の検討、参加者の関心があるテーマについての講演や意見交換を通じて、まちづくりを担う者同士のネットワークづくりを目的としています。

これまでに、元学区、京都の代表的な空間のひとつである鴨川納涼風景の形成過程、地藏盆、建物疎開、地域とマンションの共生についてのセミナーを開催しました。今後も定期的に開催する予定です。

第1回 「学区」の成り立ちと現代的意義

日 時: 6月6日(木)
講 師: 和崎 光太郎氏(京都市学校歴史博物館 学芸員)

第3回 地域まちづくりにおける「地藏盆」への期待

日 時: 9月18日(水)
講 師: 村上 忠喜氏(京都市文化市民局文化財保護課)／前田 昌弘氏(京都大学大学院助教)

第4回 戦時下の建物疎開の実態と地域社会に与えている影響

日 時: 10月28日(月)
講 師: 川口 朋子氏(京都府立総合資料館研究員)

第5回 京都におけるマンションと共生を目指した地域の取組

日 時: 11月18日(月)
講 師: 田中 志敬氏(福井大学助教)

第6回 京都におけるマンションと共生を目指した地域の取組

日 時: 12月4日(水)
講 師: 大田垣 義夫氏(前有隣まちづくり委員会委員長)、田中 志敬氏(福井大学助教)

第2回 「鴨川の納涼風景」の形成

日 時: 7月31日(水)
講 師: 林 倫子氏(立命館大学助教)



文=杉崎 和久

米「Travel + Leisure」誌 2013グローバル・ビジョン・アワード 京都市景観・まちづくりセンターが受賞！

世界で最も影響力をもつ旅行雑誌のひとつ、「トラベル・アンド・レジャー(Travel + Leisure)」誌より「2013トラベル・アンド・レジャー・グローバル・ビジョン・アワード(2013 Travel + Leisure Global Vision Award)【文化部門】」を受賞しました。これまでの京町家を基調とした景観の保全・創出へ向けた活動や京町家海外連携事業の推進、地域まちづくりへの支援などの活動が高く評価されたものです。



受賞式の様子(米国ニューヨークにて)



受賞盾

平成25年10月29日(火)

写真: 西松卓哉氏(日本政府観光局ニューヨーク事務所)

トラベル・アンド・レジャー誌とは

100万部近い売上げを誇る月刊旅行雑誌。主な読者はアメリカンエクスプレスカードの会員を中心とした北米の富裕層。(アメリカン・エクスプレス・パブリッシング社、1937年創刊、米国、ニューヨーク)

トラベル・アンド・レジャー・グローバル・ビジョン・アワードとは

観光産業への貢献を称えるため、自然保護や歴史的景観、建造物などの保全、観光資源の発展に寄与する団体や企業に対し、表彰を毎年行っている。毎年、約200件の応募があり歴史、文化、マスメディア、建築などの専門家により選定されている。今年はサステイナビリティ、自然・歴史保存、コミュニティ、文化、リーダーシップ、編集者による推薦の6部門において選定している。

文=西井 明里



オリエンテーション

京都大学大学院教授の
高田 光雄氏による
ご挨拶からスタート！

すまい・まちづくり教室② 「地震に備えた 住まい方を学ぼう！」

必ず来ると言われる地震に備え、
安心・安全に住むためにはどうしたら
いいか、神戸の先生に実際に学校
で行っている授業を再現していただ
きました！



兵庫県建築士会
住教育支援チーム
木村 聡一氏

フリーディスカッション 「すまい・まちづくりトーク」

京都・大阪・神戸の三都市から、学校の
先生や、すまいやまちづくりに携わる専門
家をお招きし、すまい・まちづくり教育の
現状について、ご自身の経験をもとにお
話しいただきました。そして、宿題や体験
型授業など「子どもが学ぶことを通じて大
人も学ぶ」機会をつくることの大切さにつ
いてお話しいただきました。

京都市総合教育
センター指導主事
吉村 泉氏

兵庫県建築士会
住教育支援チーム
八木 景子氏

コーディネーター役
大阪教育大学教授
碓田 智子氏

京府立大学教授の
檜谷 美恵子氏に
ご意見をいただきました

インテリア
コーディネーター協会関西
土谷 尚子氏

京のまちかどコーナー

ボランティアさんの楽しい
解説の後、子どもたちが元気
良く京都のまちについてのク
イズに答えてくれました！

「京のまちかど」ではフェ
スタの期間以外も、不定期ですが市民ボランティ
アの方々が展示の解説をしてくださっています！



すまい・まちづくり教室① 「建築家と一緒にすまいと まちのジオラマを作ろう！」

自分たちでそれぞれテーマを
決めて小さなまちの模型をつく
り、最後にはそれらを組み合わ
せて大きなまちの模型が完成し
ました！



日本建築家協会近畿支部
京都地域会の方々がサポート

すまい・まちづくり教室③ 「発見！まちなか探検隊」



京都府建築士会
まちづくり委員会の
方々とマップづくり



インスタントカメラを持って
まちあるきをしなが、自分の
宝物を発見！地域の人からも
お話を聞いて、最後はマップに
まちの魅力をまとめました！

ワークショップ：神戸

交流サロンではワー
クショップも。神戸の授
業で使われる模型は、
親子だけでなく、専門
家や先生方も作り方に
興味津々。



ワークショップ：大阪

インテリアコー
ディネーターさんの
アドバイスのもと、
自分の好きな素材
でボードづくり。



図書コーナー

今月の特集として、
「すまい・まちづくり
学習」に関連した子
ども向けの本が並
びました。床にも楽
しい装飾が！



展示コーナー

三都市の事例をご紹
介！神戸で行われている
実際の授業風景も放映す
るなど、各都市の事例を
比較・参考にしていただ
ける展示になりました。



文=牧野 杏里、阿部 麻衣子、森川 宏剛



景観法10年を検証する

～日本建築学会大会(北海道)の議論から～

森川 宏剛(当センター 事業第一課長)



去る2013年9月1日、日本建築学会大会(北海道)において、「景観法10年の検証－市町村景観行政の課題と展望」と題した研究懇談会が開催されました。景観法が制定されたのは2004年、来年で10年目を迎えることになります。この節目に向けて、景観法^{*1}ができたことで景観行政はどう進んできたのか、どんな課題があるのかを検証しようという取組です。当センターが全国初の景観整備機構^{*2}の指定をいただいたこともあり、私もパネリストとして参加しました。ここでは、この研究懇談会の議論をご紹介します。

景観法10年の検証 プログラム

主旨説明 浅野 聡氏(三重大学准教授)

主題解説

- 1 小樽市の景観行政と歴史的建築物
阿部 宏之氏(小樽市)
- 2 羊蹄山麓における広域景観づくり
田村 佳愛氏(北海道)
- 3 景観整備機構による景観まちづくりの支援
森川 宏剛(京都市景観・まちづくりセンター)
- 4 市民・NPOによる景観法の活用
卯月 盛夫氏(早稲田大学大学院教授)
- 5 景観法の課題と展望
小浦 久子氏(大阪大学大学院准教授)

景観法ができたことで取組の裾野は広がったのですが、廃屋・空き家対策のように景観法で対応できない景観課題もあり、都市計画制度や地域づくりなど総合的な取組の中で景観行政を考える必要性があることなど、制度のあり方への課題も提示されました。

一方、人口減少、高齢化、地場産業の衰退などが進む中で、景観に焦点を当てて地域再生に取り組む事例が全国的にも増えているようです。その地域再生はコミュニティ再生と密接に関連しています。特定の人達で議論するのではなく、オープンな議論をしていくことが、コミュニティ再生につながり、地域を評価することにつながり、更に景観計画の基準のあり方につながっていく、そんな展望が共有されました。

2013年1月時点で、全国の景観行政団体は568団体、今後景観行政団体になる意向のある地方公共団体が約300団体で、景観法制定以降、景観行政に取り組む地方公共団体の裾野は広がっています。

研究懇談会では、小樽運河の整備と「ふるさとまちづくり寄付条例」を活用した歴史的建造物の保全の取組、北海道後志地域における廃屋空き家対策モデル条例、空き家バンク制度の取組、京都からは地域景観づくり協議会制度を活用したまちづくりや、京町家まちづくりファンド、京町家カルテなどの取組の紹介、そして横浜市や茅ヶ崎市の景観審議会の事例から事前協議の大切さなどが紹介されました。



- | | |
|------------------|--|
| *1 景観法 | 2004年6月に公布された良好な景観形成を促進するための法律。地方公共団体が実施する規制力のある景観施策の根拠法となっている。 |
| *2 景観整備機構 | 財団法人やNPOなどで、景観行政団体から良好な景観形成に関する業務を適切に進められると認定された団体。 |
| *3 景観行政団体 | 景観行政を進める地方公共団体のこと。政令指定都市や中核市は自動的に、その他の市町村は都道府県と協議の上、景観行政団体となることができる。京都市は景観行政団体である。 |

私と京都

一般社団法人京都府建設業協会 会長
株式会社 岡野組 代表取締役
岡野 益巳



「安心・安全の町づくり」

千年の都京都、国際観光都市京都、その京都の歴史的風土特別保存地区の南禅寺に68年間住み、美観地区の岡崎にて建設業を148年間営んでいます。この周辺には銀閣寺、法然院、真如堂、黒谷、永観堂、南禅寺、平安神宮、青蓮院、知恩院などの社寺仏閣や野村別荘を中心とする昔からの別荘街と、老舗料亭など枚挙に遑が無いほど歴史的建物が建ち並んでいます。その中に、京都市動物園、疏水記念館、京都市美術館、京都府立図書館、京都会館、みやこメッセ、国立近代美術館など近代的な文化施設があり、まさに和洋折衷の地域と言えるかも知れません。そして、そのほとんどが疏水沿いにあるか、疏水分線から取水をして、何らかの形で疏水の恩恵をこうむっています。その本線は、岡崎、夷川、鴨川、川端通りに沿って伏見へと流れ、逆は若王子、銀閣寺、北白川に向っております。その流れに沿って哲学の道もありますが、全て疏水を中心にまとまっています。疏水のお陰で、分流には自然がまだ残っています。春にはタンポポやレンゲ草の草花が咲き、しだれ桜も何とも言えず美しい。夏には蛍が乱舞し、水辺には多くの生き物が生息しており、たまに、イノシシやタヌキの突然の訪問にびっくりさせられます。もし、琵琶湖疏水がなければ……ただの住宅地になっていたように思います。

町の中にも、巾1.5m位の水路があれば京都の町なかの風情も大部変わるのではないかと考えています。水路によって自然環境が変わり、町並や町家がより映えるとともに、人々の憩いの場ともなります。

また、災害時にも大変役に立つと常々思っております。特に最近の集中豪雨で河川が溢れても水路が沢山あれば逃げ道になり、対処出来るのではと思っています。

阪神淡路の大震災の時でも、疏水があれば、あれだけの

大火災が起らなかったのではと神戸の色々な方から聞きました。その様な事を思う時、町家の保存や建築の容積、建ぺい率、高さ制限、風致、美観も大切ですが、安心・安全を基本に考えると、都市づくり、都市計画に則り、道路、河川、橋梁等をもう少し良く考え、整備しなければどんどん都市が壊れていくように思います。いずれ観光客も来ない様になるのではと心配しています。

私の住んでいる南禅寺、東山一帯はこれから紅葉シーズンになると、道路が大渋滞になり、全く動きがとれません。もし、火災や急病の方があれば、消防車や救急車は全く入ることが出来ません。どうするのでしょうか？私の町内では「南禅寺地域の環境を守る会」があり、町並みにあった木の看板造りや清掃活動などを行い、地域の環境を守っています。ここで毎年、春、秋の交通渋滞緩和について討議をするのですが、妙案がありません。もちろん町家の多い東山区も同じことを心配されていると思います。

私は町家を保存するだけでなく、どう生かせるのか、この狭い京都をどう使うのか、百年先を考え安全な都市計画を行ってこそその話であり、町家街だけでは京都の町の魅力は守れません。色々な地域があってこそ京都の奥深さや風情も生きてくると思います。最近「おもてなし」という事が盛んに言われていますが、京都市民憲章を守り実行し、安心・安全な町づくりも「おもてなし」ではないかと思っています。



写真:岡野 益巳氏

スタッフのつぶやき T.M

大回り乗車というのをご存知だろうか？JRの都市近郊区間を、最短区間の切符で、“一筆書き”の要領で同じ駅を二度通過することなく長距離乗車することである。時間に余裕のあるリタイア世代ならではの楽しみであるが、一度やってみるとハマること請け合い。

京都にお住まいの方へのお勧めコースは、京都から奈良線東福寺までの1区間140円の切符で湖西線からスタート、近江塩津から北陸線・琵琶湖線で草津へ、草津線で柘植へ、関西本線で加茂へ、木津から奈良線で東福寺へというもので、乗り継ぎ時間も含め約6時間弱、鉄ちゃん、鉄子ならずともじっくり楽しめる。勿論違法ではなくJRでも公認、検札の際は「大回り中」といえば車掌はニッコリ笑って対応してくれる。

普段あまりおなじみでない風景を車窓から眺めることで、これまで気づかなかった色々な再発見がある。是非お試しあれ。

